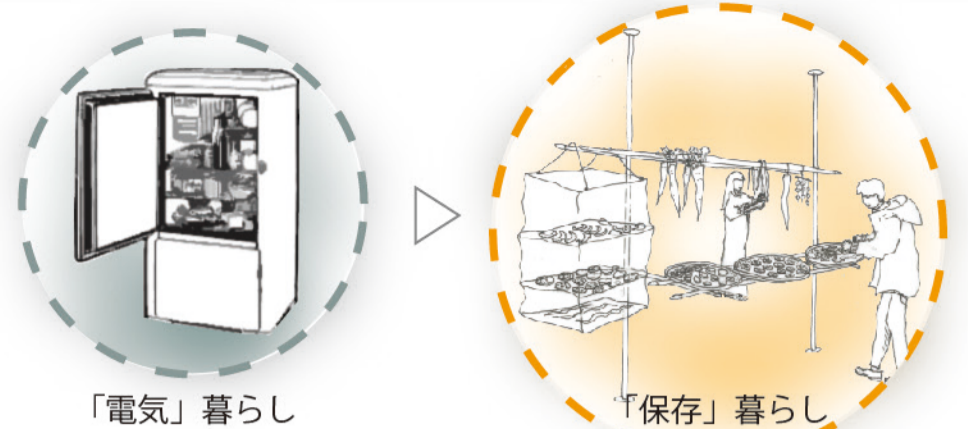
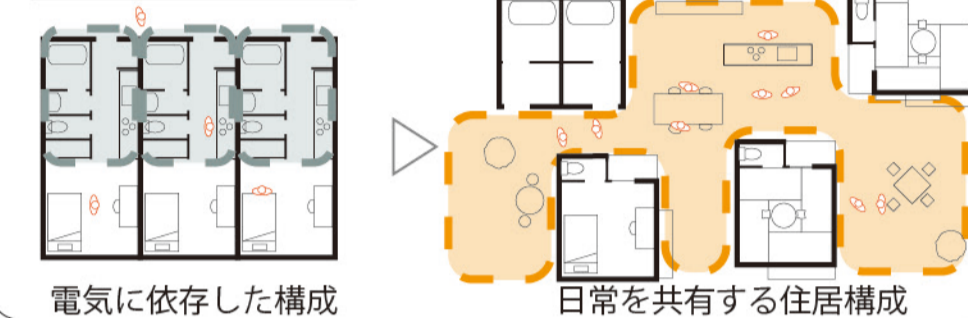


# 01 日常につながりを引き起こす「暮らしのカギ」



食べ物保存では、ただ収納するだけで、人は個々の空間に留まっている  
 食べ物をおいしく保存するという工夫で、アクティビティを創り、人と人がつながるカギとなるのではないだろうか

# 02 空間に支配されない保存の暮らしへ



1970年代からワンルームマンション賃貸が急増し、現在では日本全国の約1/3の賃貸がワンルームとなっている。そうした現代のワンルームは、電気を利用した利便性に優れる一方、個人が独立していく。そんな閉鎖的なワンルームがただ連続するだけの接点がない共用部でいいのだろうか。  
 電気がなくなると、電気により暮らしを便利にしていた個人の空間は最小限でよくなり、キッチンやダイニングといった空間がコミュニティを形成する日常を共有する住居の在り方が生まれるのではないだろうか。

# 03 農芸建築構法からヒューマンスケールへ

「農芸建築」構法  
 農家の人たちが食品の保存や熟成、効率的な生産方法など、食品に対する工夫を施した建築があり、その農家たちのノウハウが生み出した建築は、人の空間ではない、食と人が対話するような関係を生んでいる。その農芸という工夫を介して、人と人がつながる「仕掛け」がある。

### 食の保存に適した農芸建築（しかけ）

○かきや

田んぼに木組みとわらぶき屋根の柿屋が建てられ、皮をむいた渋柿を手作業で並べて乾燥させる。

### 暮らしの農芸建築へ

通風と遮光

躯体へ

### ○丸干し大根やぐら

畑の隅に保管された竹を組み、三角形のやぐらで大根を寒干しする。大きいものは高さ8m、長さは100mもある。

### 階段と支柱（大）

躯体へ

### ○ゆで干し大根やぐら

海からの風を効率よく受けるための工夫が施され、スノコ状の床を抜けて、大根を乾燥させる。

### 階段と支柱（小）

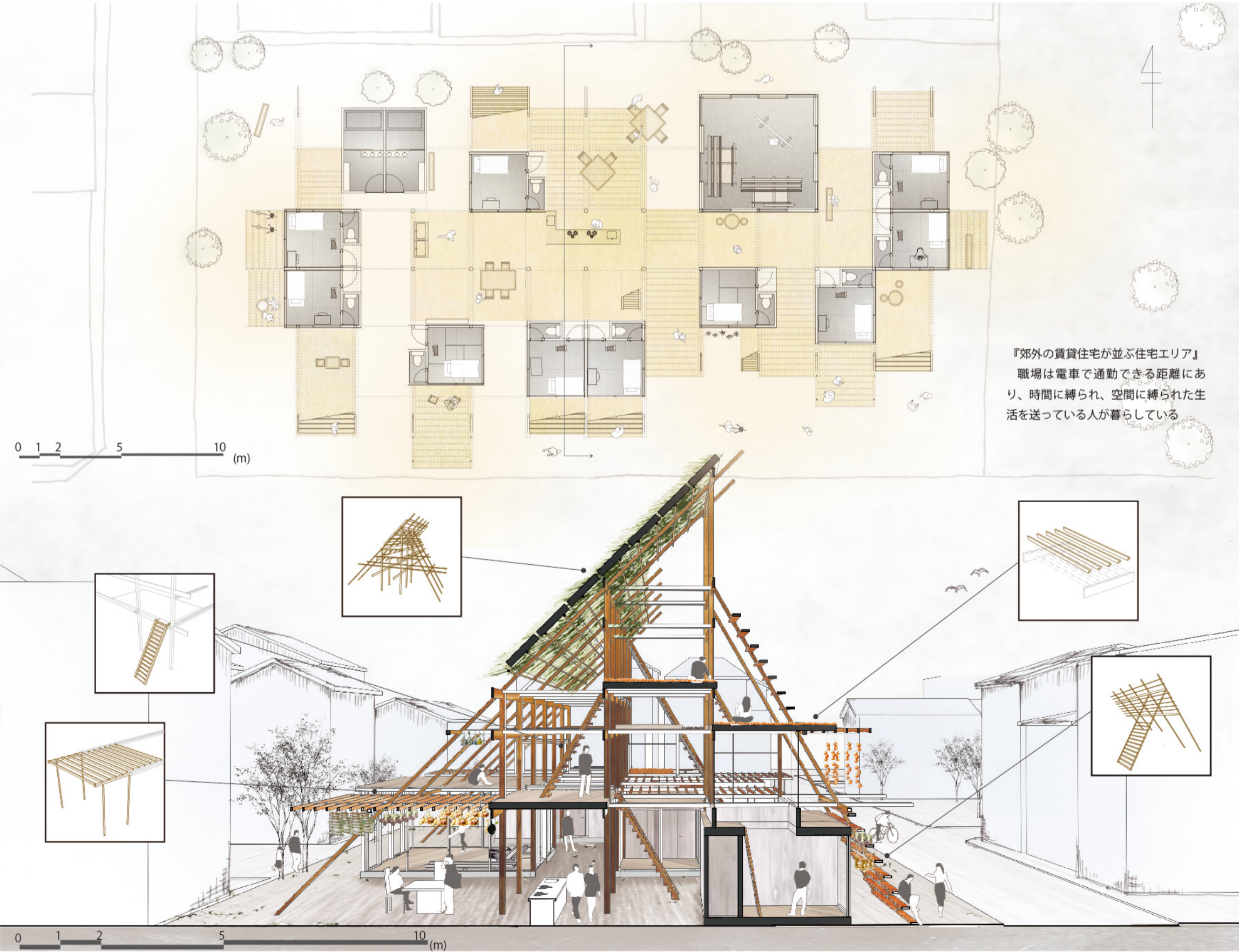
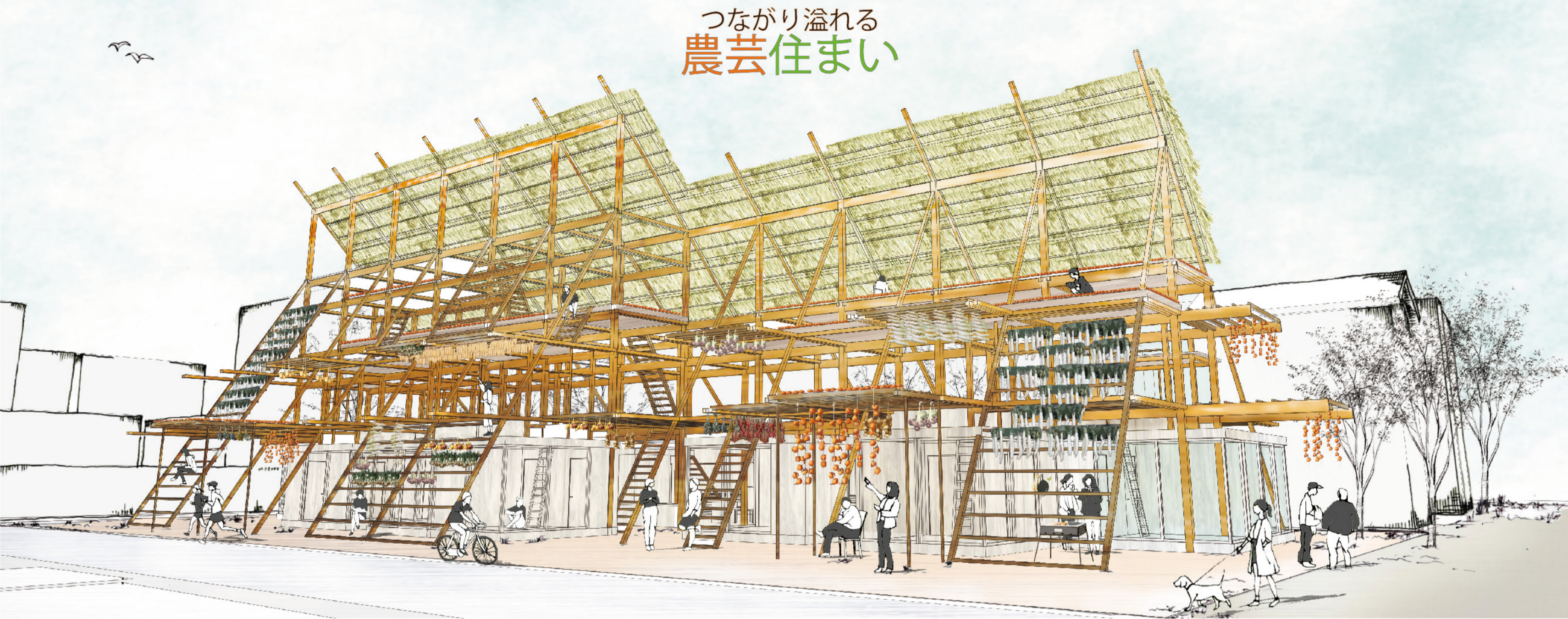
付加する

### 広げる垂木

付加する

### 躯体に掛ける垂木

付加する



# 04 「農芸住まい」によってつながる暮らし

